

NEWS RELEASE

【報道関係各位】

2021年1月20日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会 2021年 春の花粉飛散予測(第3報) ～花粉飛散は2月上旬からスタート！3月は各地でスギ花粉がピークに！～

◆2021年 春の花粉飛散予測のポイント (2021年1月20日 発表)

- ・花粉シーズンは2月上旬に九州や四国、東海、関東の一部からスタート
- ・東京のスギ花粉の飛散ピークは、3月上旬から下旬の見込み
- ・飛散量は九州から関東で前シーズンより多い予想

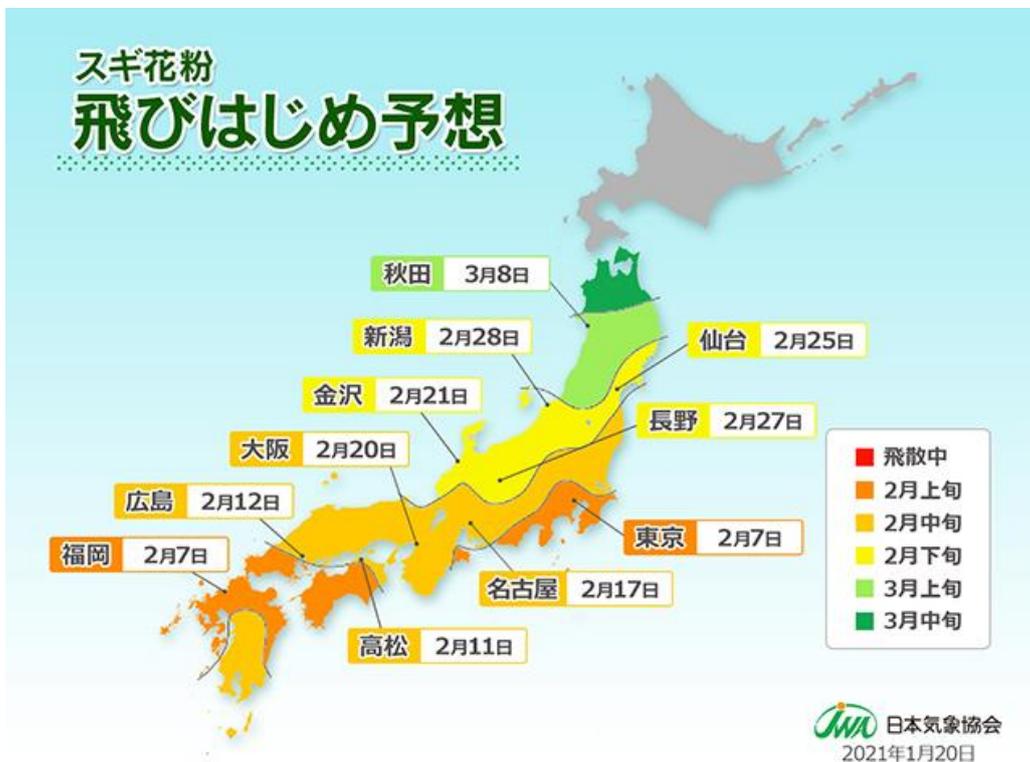
一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太）は、2021年1月20日（水）に全国・都道府県別の2021年春の花粉（スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ）飛散予測（第3報）を発表します。また、詳細な情報を、「2021年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

1. スギ花粉の飛散開始時期

2月上旬に九州や四国、東海、関東の一部から花粉シーズンがスタートするでしょう。スギ花粉の飛散開始^{*}は、九州から関東まで例年並みか早く、北陸や東北は例年並みとなる見込みです。

これまでの厳しい寒さにより、スギの花芽の休眠打破が順調に進んでいるとみられます。2月中旬にかけて気温は平年並みか高く、例年より花粉が早く飛び始める所があるでしょう。

スギ花粉は飛散開始となる前から、わずかな量が飛びますので、早めの対策を心がけてください。



※飛散開始日：1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日

2. 各地のピーク予測

スギ花粉飛散のピークは、福岡で2月下旬から3月上旬、高松・広島・名古屋では3月上旬から中旬の予想です。大阪は3月上旬、東京は3月上旬から下旬となるでしょう。ピークの時期は例年並みとなる所が多い見込みです。金沢・仙台では例年並みの3月中旬から下旬にかけて飛散のピークとなるでしょう。

スギ花粉のピークが終わる頃になると、ヒノキ花粉が飛び始め、その後ピークが始まります。福岡では3月下旬から4月上旬、高松は4月上旬から中旬、広島・大阪では4月上旬の見込みです。ピーク時期は例年並みでしょう。名古屋・東京では4月上旬から中旬にヒノキ花粉の飛散のピークとなる見込みです。金沢と仙台は、4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他の地点と比べると少ないため、はっきりとしたピークはないでしょう。

2021年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2021年1月20日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	スギ									
	ヒノキ									
広島	スギ									
	ヒノキ									
高松	スギ									
	ヒノキ									
福岡	スギ									
	ヒノキ									

JWA 日本気象協会

2021年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2021年1月20日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙台	スギ									
	ヒノキ									ピークなし
東京	スギ									
	ヒノキ									
名古屋	スギ									
	ヒノキ									
金沢	スギ									
	ヒノキ									ピークなし

JWA 日本気象協会

3. 2021年シーズンの花粉飛散傾向

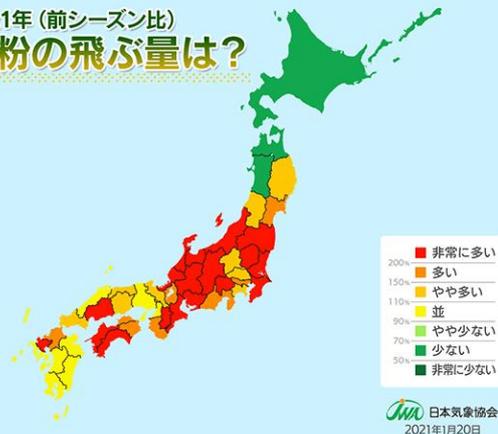
2021年春の例年比での花粉飛散傾向予測は、九州から近畿、北陸、関東、東北の広い範囲で例年より少ない見込みです。特に、九州は例年と比較して非常に少ないでしょう。東海と北海道は例年並みの予想です。

一方、前シーズン比（2020年春との比較）で見ると、九州から関東にかけて多く、四国や東海、北陸で非常に多くなる予想です。これは前シーズンが例年より少なかったためであり、前シーズンに花粉症の症状が軽かった人も2021年春は注意が必要です。東北は前シーズン並み、北海道は前シーズンより少なくなるでしょう。

2021年(例年比) 花粉の飛ぶ量は?



2021年(前シーズン比) 花粉の飛ぶ量は?



4. 各地域の花粉飛散傾向

地方	飛散量				2020年夏の気象		
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値	気温	降水量	日照時間
北海道	例年並	100%	少ない	60%	高い	平年並	平年並
東北	少ない	60%	前シーズン並	90%	高い	多い	平年並
関東甲信	少ない	60%	多い	180%	かなり高い	かなり多い	平年並
北陸	やや少ない	70%	非常に多い	270%	高い	かなり多い	少ない
東海	例年並	90%	非常に多い	220%	かなり高い	かなり多い	平年並
近畿	少ない	50%	やや多い	140%	かなり高い	かなり多い	平年並
中国	少ない	50%	やや多い	120%	高い	かなり多い	平年並
四国	少ない	60%	非常に多い	210%	高い	多い	平年並
九州	非常に少ない	30%	やや多い	120%	高い	かなり多い	平年並

5. スギ花粉のライフサイクル

スギ花粉は1年間を通じて、生長・形成・開花を経て、花粉を飛散します。飛散した花粉からまた生長が始まります。



6. 飛散量の予測根拠

花粉の飛散量は前年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の飛散量が多くなるといわれています。

日本気象協会では、気象データに加え、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などのデータ、および全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽調査の結果などをふまえて予測しています。花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や、花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得ながら、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。



7. 各地域の花粉飛散傾向

【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン (例年) の 200%以上
多い	: 前シーズン (例年) の 150%以上 200%未満
やや多い	: 前シーズン (例年) の 110%以上 150%未満
前シーズン(例年)並	: 前シーズン (例年) の 90%以上 110%未満
やや少ない	: 前シーズン (例年) の 70%以上 90%未満
少ない	: 前シーズン (例年) の 50%以上 70%未満
非常に少ない	: 前シーズン (例年) の 50%未満

前シーズン	: 2020 年シーズン飛散量
例年	: 過去 10 年(2011～2020 年)の平均値

【2020 年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	: 1981～2010 年の平均値
----	-------------------

◆日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は 1990 年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

- 本情報の無断での法人利用(プレスリリースでの引用や販促目的使用など)はご遠慮いただいております。
商品 PR など法人利用をご検討の際はお問合せフォーム(<https://www.jwa.or.jp/contact/>)からご連絡をお願いします。

以上